

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	藤坂恭子
職 位	グローバル COE 研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>2011年度の研究は次世代ユニット研究のワーキングペーパー執筆を中心に行った。ロサンゼルス高等裁判所において収集した、日本人移民による離婚訴訟の史料を整理し、統計資料作成、データ分析を行った。さらに、それらの史料と比較するために、日本語新聞『羅府新報』の離婚に関する記事を読覧した。（立命館大学図書館）さらに、離婚、近代家族、日本人移民女性に関する参考文献も読覧した。以上の結果から、日本人移民の離婚訴訟は、近代家族の要素の中でも、特に、性別役割分業の規範を求めた裁判であったと結論付けた。また、裁判は妻からの訴えが約80%を占めていたこと、その夫は農場従事者が大半であったこと、出身県は広島、和歌山、熊本、岡山が多く、それはロサンゼルス移民の出身県分布と重なっていたこと、主な離婚理由は遺棄、虐待、扶養義務不履行であったこと、また日本人移民社会は離婚する者に対して批判的であったことを明らかにした。</p> <p>以上用いた史料に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校所蔵の日本人移民のある家族の文書の中から、離婚した女性の書簡や日記を加え、加筆修正し、来年度は英文ジャーナルに投稿を計画している。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>次世代ユニット研究ワーキングペーパー（2012年1月）</p> <p>「第二次世界大戦前の米国カリフォルニアロサンゼルスにおける日本人移民女性の近代性の検証」</p>	

